

令和3年度 中部地方ダム等管理フォローアップ委員会 議事要旨

1. 日時：令和4年1月28日（金）
2. 場所：AP名古屋 会議室 B+C+D
3. 出席者：藤田委員長、石田委員、粕谷委員、西條委員、
辻本委員、中村委員、長谷川委員、松尾委員
4. 議 事：
 - (1) ダム等の定期報告（案）
 - 1) 長島ダム
 - 2) 蓮ダム
 - 3) 新豊根ダム
 - (2) 令和2年年次報告書(案)及び令和3年度の主な出来事
 - (3) 審議概要等の確認

(1) ダム等の定期報告について

1) 長島ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた長島ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、長島ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、長島ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・河道整備に合わせたダム操作について、整備計画規模の降雨が発生した場合などの下流河川の状況やダムの対応を単に浸水想定だけでなく系統的に検討すること。

ii) 利水補給

- ・特になし

iii) 堆 砂

- ・特になし

iv) 水 質

- ・出水規模の大きな洪水後に生じる全層濁水状態への対応についても引き続き検討すること。
- ・淡水赤潮の発生について局所的な水の滞留する箇所を注視して監視を行うこと。

v) 生 物

- ・ダム周辺植生の将来的なあり方について目標をもって対応すること。

vi) 水源地域動態

- ・特になし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案(発言)の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

(1) ダム等の定期報告について

1) 蓮ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた蓮ダムの定期報告書（案）について、審議を行った。

その結果、蓮ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、蓮ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・なし

ii) 利水補給

- ・水道用水の安定供給に対して、ダムがどの程度寄与したのかを示すこと。

iii) 堆 砂

- ・採取土砂の有効利用について、適切な下流還元土砂量等を引き続き検討していくこと。

iv) 水 質

- ・近年、植物プランクトンの渦鞭毛藻の出現が増加傾向にあるので、合わせて記述を訂正すること。
- ・富栄養化現象の評価について淡水赤潮の発生場所を明示すること。

v) 生 物

- ・ワラビ群落のワラビは、シダ植物なので、分類を訂正すること。
- ・今後、ワラビ群落が遷移し、二次遷移が進むと樹木群落へ変化するので、今後、着目して調査を進めること。
- ・ダム湖環境基図作成調査の中では、群落組成調査が実施されており、調査結果は、植物相の評価を分析できると考えるので、活用すること。

- ・カワウについて、ダム湖周辺が繁殖地として利用されるようになると、漁業被害等が進むので、個体数が少ない状況での対策を検討すること。
- ・特定外来生物ブルーギル、オオクチバスについては、生態系に悪影響が顕著になる前に、具体的な駆除対策を検討すること。
- ・河川環境調査において、土砂還元をしたにもかかわらず、下流河川の最深河床高が低くなる傾向が認められることから、今後も注視すること。

vi) 水源地域動態

- ・なし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。

(1) ダム等の定期報告について

1) 新豊根ダム 定期報告について

【総括】

これまでの調査結果の分析・評価をとりまとめた新豊根ダムの定期報告書(案)について、審議を行った。

その結果、新豊根ダムは治水・利水について適切な効果を発揮していること、環境への影響等についても、各種環境指標の状況が概ね安定していることから、新豊根ダムについては適切に管理運用されていることを確認した。

なお、委員会の審議に際し、各委員より出された主な意見等は、下記のとおり。

i) 防災操作

- ・事前放流はそれぞれのダムで水を流すだけでなく、新豊根ダムと佐久間ダムとの連携を含め、効果的な運用を検討していただきたい。

ii) 利水補給

なし

iii) 堆 砂

なし

iv) 水 質

なし

v) 生 物

- ・外来種については、対策を行っている中でオオキンケギクが減ったことは重要であり、アピール出来る点である。単なる生息・生育状態の確認のみでなく、今後の駆除目標を設定した上で取り組まれたい。
- ・揚水・発電管に魚類が吸い込まれていないのか、対策されていないのか確認されたい。

vi) 水源地域動態

なし

- 定期報告書については、了承する。委員からの意見等は、提案（発言）の趣旨を踏まえ定期報告書に反映させること。